

[午前42]

Aさんは、41週で3,000gの女児を出産した。生後15日に自宅に家庭訪問を行った。家庭訪問時の児の体重は3,300gであった。「母乳の飲みが悪い。夜は何回も授乳して眠れない」とイライラをつのらせている。夫の帰りは不規則で、ほとんど1人で子育てをしているという。

この時の支援で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 乳児一時預かりを勧める。
2. 体重増加は順調であると伝える。
3. 日中の授乳の間隔を短くするよう勧める。
4. 昼間の母親の休養のとり方を一緒に考える。
5. 夜間の授乳を人工乳に切り替えるよう勧める。

【出題基準との照合】

領域 地域看護学Ⅱ

目標 あらゆる発達段階、健康レベル別に個人・家族および小集団の生活と健康状態を評価できる能力を問う。また、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性をふまえた適切な接近技法・技術を選択し、介入することのできる基礎的能力を問う。

大項目6 母子保健指導

中項目C 母性の生活と保健指導のおもな対象範囲・内容

小項目b) 妊産褥期

修正イーベル法の結果

必要度	必須		重要			疑問			n	RDI
難易度	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難	160	0.65
人数	32	32	24	51	14	1	2	4		

【傾向】問題の必要度を必須・重要ととらえている学生は153人(95.6%)、難易度を平易ととらえている学生は57人(35.6%)であった。期待正答率(RDI)は0.65とやや高い。

【検討結果】

- ・設問文の焦点は、新生児期における育児の不安への支援である。選択肢「1. 乳児一時預かりを勧める。」は、まだなにも支援していない状態で選択する手段とは判断できない。栄養に関する選択肢「3. 日中の授乳の間隔を短くするよう勧める。」は新生児期の授乳(母乳栄養)支援として不適切な指導であることが容易に判断できる。選択肢「5. 夜間の授乳を人工乳に切り替えるよう勧める。」も安易な手段の選択であり不適切な指導であることが明らかにわかる。
- ・保健師の国家試験としては重要な設問であるが、選択肢が精選されていないため、簡単すぎる設問になっている。保健師の知識を問うならば、事例の情報を追加して、選択肢の難易度をあげた設問にすることが望ましい。

[午前43]

Aさんは4か月になった児を連れて、乳児健康診査に来所した。児の発育発達は順調であった。Aさんは、「夜間の授乳は少なくなったが、子育てと家事とで休む暇もない」と訴え、「みんなどうやって子育てしているのかしら」と質問する。市内には子育ての自主的な活動をしているグループがあるので、参加を勧めることとした。

Aさんのグループ参加の目的で優先度が低いのはどれか。

1. 母親役割の習得
2. 育児行動の習得
3. 母親の仲間づくり
4. 両親との関係修復

【出題基準との照合】

領域 地域看護学Ⅱ

目標 あらゆる発達段階、健康レベル別に個人・家族および小集団の生活と健康状態を評価できる能力を問う。また、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性をふまえた適切な接近技法・技術を選択し、介入することのできる基礎的能力を問う。

大項目6 母子保健指導

中項目C 母性の生活と保健指導のおもな対象範囲・内容

小項目b) 妊産褥期

修正イーベル法の結果

必要度	必須		重要			疑問			n	RDI
難易度	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難	162	0.68
人数	54	11	40	40	4	7	3	3		

【傾向】問題の必要度を必須・重要ととらえている学生は149人(92.0%)、難易度を平易ととらえている学生は101人(62.3%)であった。期待正答率(RDI)は0.68とやや高い。

【検討結果】

- ・設問文の「みんなどうやって子育てしているのかしら」と質問したAさんへのグループ参加の目的を問うているが、選択肢「4. 両親との関係修復」は目的が異なっていることが容易に判断できる。つまり、保健師の国家試験問題としては簡単すぎる設問である。
- ・保健師の知識を問うならば、事例の情報を追加して、選択肢の難易度をあげるか、今後のAさんへの支援の優先度を問う設問にすることが望ましい。

[午後 1]

保健師の行う地域診断で適切なのはどれか。

1. 実践活動とは別の活動として行う。
2. 地区踏査による情報は優先度が低い。
3. 人口 5,000 人以下の場合には行わない。
4. 地域の状況に合った活動の方法を見出すことができる。

【出題基準との照合】

領域 地域看護学 I

目標 1 地域で生活する人々の健康問題の解決や、地域の健康課題の組織的な解決に対する地域看護活動の基礎的な考え方の理解を問う。

大項目 2 地域看護学の構成

中項目 C 活動方法

小項目 a) 地域診断

修正イーベル法の結果

必要度	必須		重要			疑問			n	RDI
	平易	中等	平易	中等	困難	平易	中等	困難		
人数	97	9	27	20	3	2	1	2	161	0.73

【傾向】問題の必要度を必須・重要ととらえている学生は 156 人 (96.9%)、難易度を平易ととらえている学生は 126 人 (78.3%) であった。期待正答率 (RDI) は 0.73 と高い。

【検討結果】

- ・誤答肢は否定型のため、容易に解答が導き出せる。また地域診断に関する教科書レベルの知識があれば、簡単に解答できるので、保健師の国家試験問題としては簡単すぎる設問である。
- ・保健師の知識を問うならば、地域診断のプロセスや具体的方法を問う設問にすることが望ましい。

(2) 作成した問題（スキルスアナリシス型）の学生への実施とその結果分析

1. 研究目的

本研究は第95回保健師国家試験に対する修正イーベル法を用いた分析結果を参考にしながら、保健師としてふさわしい国家試験問題を作成し、試験的に模擬試験として実施し、保健師国家試験問題として適切な保健師の実践能力（スキルスアナリシス）向上型の問題を開発することが目的である。

2. 研究方法

- 1) 修正イーベル法を用いて行った第95回保健師国家試験の分析し、その結果をもとに実践能力を評価する問題の作成を行う。
- 2) 作成した問題を協力できる保健師養成校（大学1校・養成所3校）で試験的に模擬試験として実施し、その結果を分析する。
- 3) 倫理面への配慮
修正イーベル法の目的を説明し、調査の協力は自由意志であることを口頭で説明し、回答記入をもって協力の意思表示とした。

3. 研究結果

- 1) 修正イーベル法による第95回保健師国家試験分析を行った。
 - (1) 全問題の期待正答率（以下RDIとする）は、最大値0.71、最小値0.47、平均0.66である。また、午前問題は平均0.65、午後問題は0.66であった。
 - (2) RDI0.65以上の問題が午前34問、午後36問であった。それらは“必要度が必須・難易度が平易”であると回答されている問題が44問（62.9%）と多い。
 - (3) RDI0.55未満の“難しすぎる問題”が午前4問であった。それらは“必要度が疑問・難易度が困難”もしくは“必要度が重要・難易度が困難”と回答していた。
- 2) 第95回保健師国家試験の分析の結果、午前の14問題、午後の5問題が不適切な問題として抽出し、さらに問題毎の分析を行った。（表5）
 - (1) 該当する問題は、RDIが最大値0.73、最小値0.47、平均0.67である。
RDI0.55未満の“難しすぎる問題”は2問、RDI0.65以上の“易しすぎる問題”17問であった。
 - (2) これらの問題の出題範囲は、地域看護学Ⅱ領域が11問と最も多かった。
- 3) これらの問題について、改変問題を作成した。

作成にあたっては、研究班らで数回ブラッシュアップを行った。

4) 「保健師国家試験としてふさわしい問題」を作成した。(問題表)

作成するにあたり、①出題数も少なく、保健師の活動である地域の健康水準を向上させるための保健活動を展開する方法を問う地域看護学Ⅲの領域であること、②状況設定問題を作成すること、③タキソノミーレベルも解釈型以上の問題を作成するようにし、研究班メンバーが15問作成した。

5) 「保健師国家試験としてふさわしい問題」であるかを検討するために、これらの問題を保健師国家試験模擬試験として教育機関に協力を求め、行った。

(1) 問題

第95回保健師国家試験から5問(地域看護学Ⅰ・Ⅱ・保健医療福祉行政論)抽出し、その5問を改変した。さらに、研究班作成の地域看護学Ⅲ領域の問題15問をあわせ計25問を模擬試験として行った。

(2) 協力校および学生数

大学1校、養成校3校、計135名に試験的に実施した。

6) 保健師国家試験模擬試験を実施結果(表9～12)

(1) 全問題のRDIの平均値と標準偏差は 0.63 ± 0.07 であり、最大値は0.73、最小値は0.55であった。

(2) 問題種類別のRDIの平均値は、国家試験問題は 0.70 ± 0.06 であり、改変問題 0.67 ± 0.08 、研究班作成の問題の平均値が最も低く、 0.61 ± 0.08 であった。

(3) RDIの1SD以上の問題が5問あった。それらのうち、4問は国家試験問題で、残りの1問は改変問題であった。出題の領域は保健医療福祉行政論、タキソノミーレベルは単純想起型の問題であった。

(4) RDIの-1SD以下の問題は1問あった。委員会作成問題であり、出題の領域は疫学・保健統計・保健統計調査、タキソノミーレベル問題解決型の問題であった。

(5) 模擬試験を実施した大学、養成校の学生及び教員アンケートの結果に、国家試験として相応しいとした問題は、学生、教員とも研究班作成の問題と回答していた。

(6) 改変問題と第95回国家試験との比較では、両者とも、改変問題がより保健師の専門性を問う問題であると回答していた。

4. 考察

研究班作成の問題は、期待正答率平均 0.61 と、保健師国家試験問題として、“中等”で“重要”と判断する 0.6 に最も近い値となり、保健師国家試験の水準として妥当と考えられる。

しかし、標準偏差が 0.08 であり、精度の高い問題作成には至っていないと考えた。また、改変問題は、改変前問題より期待正答率が平均 0.7 から 0.67 となり、保健師国家試験問題として“中等”で“重要”と判断する 0.6 に近い値となった。保健師国家試験の水準に近づいているが、いまだタキソノミーレベルなどには課題がある。

研究班作成の問題が、保健師国家試験問題として“中等”で“重要”と判断する 0.6 の水準であったことは、研究班活動の中で第 95 回の保健師国家試験問題を修正イーベル法を用いて分析する過程で、保健師として必要なスキルや役割機能とは何か、絶えず議論を行っていたことにより、以前よりは明確になっていったと考える。まだまだ課題は残っているが、保健師として必要なスキルや役割機能を評価する問題を作成することにつながっていったと受け止めている。

今後ともエビデンスレベルの高い方法（修正イーベル法）を用いて、国家試験問題を分析し、問題の妥当性を検討することによって、教員が保健師国家試験として保健師の能力を評価できる問題を作成できることになると考える。このように、保健師の国家試験としてふさわしい国家試験問題の作成ができることは、教員の教育力の向上が行われ、保健師教育の質向上につながると考える。

5. 結論

保健師国家試験問題としてふさわしい問題作成能力の向上のためには以下のことが重要である。

- ①_r 国家試験問題作成能力向上のための研修会を継続して開講し、啓蒙を図る。
- ②_r 修正イーベル法を用いて国家試験問題分析する。
- ③_r 国家試験問題作成の留意点をふまえ、作成する。

1. 保健師国家試験としてふさわしい問題

項目	問題	全体(n=163)			大学(n=90)			統カリ(n=30)			1年課程(n=43)		
		数	率	項目別の率	数	率	項目別の率	数	率	項目別の率	数	率	項目別の率
国家試験問題	問1	100	61.2	67.6	62	68.6	71.6	27	90.0	86.7	11	25.6	46.0
	問2	128	78.4		75	83.1		28	93.3		25	58.1	
	問3	121	74.1		72	79.7		24	80.0		25	58.1	
	問4	97	59.8		55	61.7		27	90.0		15	34.9	
	問5	105	64.1		58	64.0		24	80.0		23	53.5	
改変問題	問6	128	78.4	68.6	75	83.1	69.1	24	80.0	72.0	29	67.4	65.6
	問7	124	75.9		69	76.4		23	76.7		32	74.4	
	問8	110	67.3		62	68.5		20	66.7		28	65.1	
	問9	99	61.0		51	57.2		23	76.7		25	58.1	
	問10	99	60.5		54	59.6		18	60.0		27	62.8	
地域看護学Ⅲ委員会作成問題	問11	121	74.1	69.7	65	72.0	69.8	23	76.7	70.7	33	76.7	69.5
	問12	109	66.6		57	62.9		24	80.0		28	65.1	
	問13	119	72.8		64	70.7		20	66.7		35	81.4	
	問14	122	74.7		67	74.2		23	76.7		32	74.4	
	問15	110	67.3		59	65.1		21	70.0		30	69.8	
	問16	116	71.0		61	67.4		24	80.0		31	72.1	
	問17	124	75.9		70	77.5		24	80.0		30	69.8	
	問18	100	61.6		48	53.8		23	76.7		29	67.4	
	問19	122	74.7		70	77.5		21	70.0		31	72.1	
	問20	118	72.2		71	78.6		20	66.7		27	62.8	
	問21	112	68.5		65	71.9		20	66.7		27	62.8	
問22	105	64.7	54	60.5	23	76.7	28	65.1					
問23	95	58.1	57	63.0	14	46.7	24	55.8					
問24	125	76.6	70	77.6	20	66.7	35	81.4					
問25	110	67.3	64	70.8	18	60.0	28	65.1					

・保健師国家試験問題としてふさわしい問題は、委員会作成問題69.7%、改変問題68.6%、国家試験問題67.6%の順であった。

・1年課程ほど同様の傾向であり、国家試験問題を選択した者は46.0%と少ない。

・統合カリキュラムでの課程では国家試験問題75.3%、改変問題71.5%、委員会作成問題70.0%の順であった。

2. ふさわしい問題(改変問題との比較)

項目	問題	全体(n=163)			大学(n=90)			統カリ(n=30)			1年課程(n=43)		
		数	率	項目別の率	数	率	項目別の率	数	率	項目別の率	数	率	項目別の率
国家試験問題	問1	47	28.83	42.33	28	31.11	45.33	17	56.67	52.67	2	4.651	28.84
	問2	73	44.79		42	46.67		18	60		13	30.23	
	問3	84	51.53		52	57.78		15	50		17	39.53	
	問4	66	40.49		41	45.56		11	36.67		14	32.56	
	問5	75	46.01		41	45.56		18	60		16	37.21	
改変問題	問6	112	68.71	56.69	61	67.78	53.11	11	36.67	44	40	93.02	49.3
	問7	91	55.83		47	52.22		13	43.33		31	72.09	
	問8	77	47.24		37	41.11		15	50		25	58.14	
	問9	99	60.74		47	52.22		18	60		34	79.07	
	問10	83	50.92		47	52.22		9	30		27	62.79	

・改変問題がより保健師の専門性を問う問題であると答えている者が多い。

保健師国家試験模擬試験教員アンケート結果

1. 保健師国家試験としてふさわしくない問題

項目	n=16	数	率	その理由			
				①	②	③	④
国家試験問題	問1	11	68.8		11		
	問2	9	56.3	2	4	3	
	問3	8	50.0		7	1	
	問4	13	81.3	6	3	1	2
	問5	12	75.0	1	7	2	2
改変問題	問6	2	12.5		2		
	問7	7	43.8		4	3	
	問8	7	43.8		4		4
	問9	8	50.0	3	3	1	3
	問10	3	18.8		3		
地域看護学Ⅲ委員会作成問題	問11						
	問12						
	問13						
	問14						
	問15						
	問16						
	問17						
	問18	1	6.3	1			
	問19						
	問20						
	問21						
	問22						
	問23	1	6.3				1
	問24						
	問25						

1. 「既出の国家試験問題」をふさわしくないと答えた者が多い。
2. その理由の多くは、「看護師の知識があれば解答できる」と答えている。
3. ふさわしくない問題として問4を選択した者が多い。その理由は「看護学の知識がなくても解答できる」が多い。

2. ふさわしい問題(改変問題との比較)

項目	n=16	数	率	
国家試験問題	問1	0		16.3
	問2	3	18.8	
	問3	4	25.0	
	問4	3	18.8	
	問5	3	18.8	
改変問題	問6	16		82.5
	問7	12	75.0	
	問8	11	68.8	
	問9	13	81.3	
	問10	14	87.5	

【保健師国家試験模擬試験】

- 1 要介護認定で正しいのはどれか。
 1. 保健所が窓口である。
 2. 申請に本人の費用負担はない。
 3. 要介護度は2年間変更できない。
 4. 申請時に主治医の意見書が必須である。

- 2 公衆衛生活動で正しいのはどれか。2つ選べ。
 1. 経済効率を優先する。
 2. 感染症対策は含まれない。
 3. 地域住民の健康レベルの向上を目指す。
 4. 主に個人の努力によって問題解決を図る。
 5. 日本国憲法に基づき国の義務とされている。

- 3 Aさんは、41週で3,000gの女児を出産した。生後15日に自宅に家庭訪問を行った。家庭訪問時の児の体重は3,300gであった。「母乳の飲みが悪い。夜は何回も授乳して眠れない」とイライラをつのらせている。夫の帰りは不規則で、ほとんど1人で子育てをしているという。この時の支援で適切なのはどれか。2つ選べ。
 1. 乳児一時預かりを勧める。
 2. 体重増加は順調であると伝える。
 3. 日中の授乳の間隔を短くするよう勧める。
 4. 昼間の母親の休養のとり方を一緒に考える。
 5. 夜間の授乳を人工乳に切り替えるよう勧める。

- 4 50歳代の夫婦を対象に退職後の生活設計のための教室を実施することとなった。教室の内容で優先度が高いのはどれか。
 1. 転倒防止の知識
 2. 車椅子の扱い方
 3. う歯予防の食事習慣
 4. ライフサイクルの変化と対応

- 5 Aさん。69歳の女性。75歳の夫と2人暮らし。63歳から高血圧で服薬治療を受けている。夫は脳梗塞で左方麻痺があり、要介護3で、訪問リハビリテーションと通所介護との利用を開始している。

市主催の地区健康相談会に来所したAさんは「先週、私は病院を受診したが、医師から血圧は安定していると言われた。しかし、夜眠れないことも多い。夫の世話で時々息が詰まりそう」と保健師に訴えた。

Aさんは「今は家事と夫の世話で忙しく、私だけが大変な気がする。夫は通所介護でお友達ができて楽しそう」を話した。対応で適切なのはどれか。

1. 夫の通所介護に同行するよう勧める。
2. 自由な時間を作れるよう一緒に考える。
3. Aさんも介護認定を受けるよう勧める。
4. Aさんだけが大変なわけではないと話す。

6 地域支援事業で正しいのはどれか。

1. 特定高齢者は要介護認定1から5の人である。
2. 特定高齢者の認定は保健所が中心に行う。
3. 生活機能評価は要介護認定を判断する。
4. 要支援者介護予防は地域包括支援センターが行う。

7 公衆衛生活動として適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 経済効率を優先する。
2. 三次予防を優先する。
3. 地域住民の健康レベルの向上を目指す。
4. 主に個人の努力によって問題解決を図る。
5. 日本国憲法に基づき国の義務とされている。

8 Aさんは、41週で3,000gの女児を出産した。生後15日に自宅に家庭訪問を行った。家庭訪問時の児の体重は3,300gであった。「母乳の飲みが悪い。夜は何回も授乳をして眠れない」とイライラをつのらせている。夫の帰りは不規則で、ほとんど1人で子育てをしているという。この時の援助として適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 夫への不満や愚痴を聞く。
2. 体重が順調に増えていることを説明する。
3. 新生児の発達を説明する。
4. 日中の休養のとり方を一緒に考える。
5. 夜間は、人工乳に切り替えるよう勧める。

9 A社の保健師が定年退職前の男性従業員を対象に退職後の生活設計の教室を実施することになった。保健師の行う教育内容で優先度が高いのはどれか。

1. 認知症予防
2. 生きがいづくり
3. 退職後の経済設計
4. 体力づくり

10 Aさん。69歳の女性。75歳の夫と2人暮らし。63歳から高血圧で服薬治療を受けている。夫は脳梗塞で左方麻痺があり、要介護3で、訪問リハビリテーションと通所介護との利用を開始している。市主催の地区健康相談会に来所したAさんは「先週、私は病院を受診したが、医師から血圧は安定していると言われた。しかし、夜眠れないことも多い。夫の世話で時々息が詰まりそう」と保健師に訴えた。Aさんは「今は家事と夫の世話で忙しく、私だけが大変な気がする。夫は通所介護でお友達ができて楽しそう」と話した。対応で適切でないのはどれか。

1. ホームヘルパーの導入を勧める。
2. 介護者の集いを紹介する。
3. 妻の話聞き、労をねぎらう。
4. ショートステイの利用を勧める。

次の文を読み、11～13の問いに答えよ。

A市は地方都市の近隣にあるベッドタウンで核家族の若い世代が多い。人口5万人。出生率8.7である。市の保健師は、町全体のたばこ対策の活動計画を検討することにした。

11 たばこ対策を見直す上で住民の喫煙に関する状況把握のために適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 肺がん検診の受診率
2. 呼吸器系の疾患受療率
3. 分煙・禁煙の実施事業所数
4. 歳入におけるたばこ税の割合
5. 禁煙教室の実施回数

12 妊産婦に喫煙者の割合が高いことから、妊婦への禁煙教室を計画した。保健指導で適切でないのはどれか。2つ選べ。

1. 喫煙の害と自分自身の症状を関連づけることを指導する。
2. 呼気一酸化炭素濃度測定器を用いて指導する。
3. ニコチンガムを購入するよう指導する。
4. 定期的に個別指導する。
5. 本人及び家族指導をする。

13 妊産婦の禁煙希望者に禁煙教室を3回開催した。教室終了時は、全員が禁煙の意思を示したが、1年後には、再喫煙している者が多かった。禁煙の費用効果分析に該当する事業経費はどれか。

1. 参加者1人あたりの事業経費
2. 1教室あたりの事業経費
3. 喫煙再開者1人あたりの事業経費
4. 1年後禁煙者1人あたりの事業経費
5. 1か月後の禁煙者1人あたりの事業経費

次の文を読み、14～16の問いに答えよ。

A町は人口約12,000人、中学校3校があり、次年度から「中学生における命のふれあい講座」をモデル事業としてB中学校で行なうこととなった。内容は助産師の講話、命のふれあい体験（妊婦及び乳幼児と中学生との交流、妊婦ジャケットの装着、産道模型の通過体験等）、命の大切さを実感させるねらいがある。この事業は保健センター、町教育委員会、子育て支援センターによる協働事業である。

14 計画立案について優先度が高いのはどれか。2つ選べ。

1. 実施中学校の概要と生活環境を把握する。
2. 予算概要（会議費、講師謝礼、交通費、教材費など）を見積もる。
3. 中学生の学習進度および他科目との関連を知る。
4. 共通理解した上で事業計画書案をつくる。
5. 妊婦の参加の可否を把握する。

15 実施計画について最も優先すべきことはどれか。

1. 講師謝礼、交通費を見積もる。
2. 妊婦に参加協力を呼びかけ内諾を得る。
3. 実際に進める担当者連絡会議を開催し趣旨を共有する。
4. 助産師と講義日程を調整し内容を確認する。
5. 校長先生に挨拶し、計画を説明する。

16 実施評価として、優先すべきことはどれか。2つ選べ。

1. 中学生の感想文を分析する。
2. 妊婦の意見を聞く。
3. 助産師から生徒の反応について意見を聞く。
4. 母子推進委員からの感想を聞く。
5. 中学校担任から生徒の反応を聞く。

次の文を読み、17～19の問いに答えよ。

人口7千人の山間部のA町。農林業従事者が多い。冬には雪が降ることが多く、主要国道が2本、電車や鉄道はなく、主な交通機関はバスと自家用車である。転出入の割合は比較的低く、永年住んでいる人たちが多く。最近、世帯の小規模化で近所づきあいが減り、各世代で孤立化の傾向が深まっている。閉じこもり高齢者の割合が近隣の町に比べて高く、閉じこもり予防の活動として高齢者サロンを各地区で月2回ずつ実施している。

A町の今年度の主な保健福祉事業は、1回／年の基本健康診査、5回／年コースの高血圧予防の健康教室、2か月に1回の乳幼児健診である。A町の健康推進員は約30名で、高齢者サロンを中心に活動を展開している。

17 昨年度の基本健康診査の結果、65歳以上高齢者のうち要精密検査となった者は、「高血圧」20%、「高脂血症」35%であった。主訴としては、「ひざの痛み」が最も多く30%であった。健康推進員に実施してもらう活動として適切なのはどれか。

1. 高齢者宅を訪問し血圧を測定する。
2. 要精密検査になった高齢者の食事指導をする。
3. 健康教室で地区ごとにウォーキング活動を紹介する。
4. 高齢者サロンで膝の痛みがある高齢者に体操を指導する。

18 今年度の高齢者保健福祉計画の中に世代間交流事業を加えて、組織的に取り組むこととした。世代間交流の目標で優先度が高いのはどれか。

1. 尊厳の確保
2. 社会参加の促進
3. 生活自立の支援
4. 介護予防対策の推進

19 世代間交流事業を健康推進員とともに企画することになった。実施計画で適切なのはどれか。
2つ選べ。

1. 健康推進員が高齢者の声かけ訪問を実施する。
2. 高齢者サロンで保育園児と交流する機会をつくる。
3. 健康教室で保育園児とのマラソンを取り入れる。
4. 乳幼児健康診査で高齢者による育児支援を実施する。
5. 地域団体の行事に高齢者が一緒に取り組む機会をつくる。

次の文を読み、20～22の問いに答えよ。

A地区は、近隣住民の交流が少ない新興住宅地域である。

地区担当保健師に、認知症高齢者を介護している家族数名から「同じ立場の人と話したい」という希望があった。家庭訪問をして、了解が得られた介護者同士を紹介した後、介護者2人が時々お互いの自宅に集まり、介護の悩みや工夫について話をするようになった。

20 3人目の介護者が参加を希望した。保健師として最も適切な対応はどれか。

1. 介護者の中からリーダーを決めた。
2. 隣の地区の認知症介護者の会と合流した。
3. 地域包括支援センターと連携して、参加者を募った。
4. 地区内で話し合いができるよう会場を手配した。

21 自主グループ活動に発展後の保健師の対応として、誤っているのはどれか。

1. グループに参加している介護者の家庭訪問を継続する。
2. グループメンバーが参加できる総会を企画する。
3. グループに関連する地域の社会資源の情報を提供する。
4. グループリーダーを保健計画策定委員候補に挙げる。

22 同じ種類の自主グループ活動はどれか。

1. 生活習慣病予防教室修了生の会
2. 障害児の親の会
3. 母子保健推進員会
4. 精神保健福祉ボランティアグループ

次の文を読み、23～25の問いに答えよ。

以下は平成18年の状況である。

A町は県のほぼ中央に位置し、人口10,645人、3,075世帯、男性4,940人、女性5,705人、年少人口1,339人、生産年齢人口6,942人、老年人口2,364人である。外国人登録者は30人で中国人が多い。住宅の状況は、古い町並みと近代的な集合住宅が混在している。

出生率8.6は周辺市町村や県平均9.1と比べ低く、合計特殊出生率は1.45と県平均1.38より若干高いが、例年県を下回っている。乳児死亡数1、死産数3、周産期死亡数1、婚姻・離婚率は平均レベルである。

死亡率9.6は県平均8.2と比べ高く、死因別統計では、悪性新生物、脳血管疾患、心疾患の順で多く、年齢調整死亡率では悪性新生物と脳血管疾患が高いが、過去5年間では脳血管疾患のみが県より高く推移している。

がん検診受診率は、ここ数年ほぼ横ばいであったが、がん検診を無料化したことにより増加した。脳血管疾患が多いことに関しては、血圧管理に力を入れた健康教育を実施しているが、保存性の高い塩漬けの伝統食を大事にしているため、住民の塩分を控えることに対する意識が低く、目に見えた減少は見られていない。

成人に対するアンケート調査の結果では、健康診査を受けていない者は、29.1%であり、健康診査を受けた者のうち、肥満者28.3%であった。また、女性で毎日間食・夜食を摂る者38.9%、男性で毎日砂糖入り飲料を飲む者は45.5%、野菜を摂る頻度が1日1回以下の者が50%以上いるなど食生活のバランスを欠いている者が多い。

23 次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. 老年人口割合は全国平均より低い。
2. 乳児死亡率は全国平均より高い。
3. 死産率は全国平均より低い。
4. 健康診査の受診率は全国平均より高い。

24 プリシード・プロシードモデルの社会アセスメントはどれか。

1. 死因別統計では、悪性新生物、脳血管疾患、心疾患の順が多い。
2. がん検診を無料化した。
3. 保存性の高い塩漬けの伝統食を大事にしている。
4. 女性で毎日間食・夜食を摂る者は38.9%である。

25 A市の新たな健康対策として優先度の高いのはどれか。

1. 外国人登録者は30人で中国人が多い。
2. 合計特殊出生率は県平均より若干高い。
3. 脳血管疾患による死亡が県平均より高い。
4. 健康診査受診者中、肥満者は28.3%であった。

(3) 問題プール制への啓蒙活動(問題作成能力向上のための研修会)

問題プールの制度を促進していくために保健師国家試験に関する問題作成のための研修会を行ってきた。その啓蒙活動とその効果をまとめた。

1. 開催数

平成 21 年度の保健師国家試験に関する問題作成のためのスキルアップ研修会の取り組みを 2 回 (Part1、Part2) 行なった。

2. 開催目的

- ① 国家試験問題作成能力の向上
- ② 保健師として必要なスキルは何か、それを評価する問題とは何かの検討
研修会を通して、全国保健師教育機関会員校の教員に国家試験問題作成の意図を浸透させ、国家試験問題プール制に対する出題が増えることをねらいとしたものである。

3. 研修会内容

1) Part1 : 平成 21 年 8 月 2 日 (日) 9:00~16:00

場所 東京大学医学部教育研究棟 13 階セミナー室

8:30~ 受付

9:00~ 開会・オリエンテーション

開会 会長挨拶

9:10~10:30 講演Ⅰ 「国家試験の教育的価値～修正イーベル法を用いた第 95 回保健師国家試験の分析」

講師 川本 利恵子先生 (九州大学教授)

10:45~12:15 講演Ⅱ 「保健師の歴史 Part」

講師 名原 壽子先生 (三育学院大学教授)

演習「修正イーベル法からみた保健師国家試験の問題点～専門性を問う問題」

13:30~ 国家試験問題分析結果の報告

酒井陽子 (秋田県立看護専門学院)

13:50~ グループワーク (Part1 では問題の分析)

14:50~ 発表とコメント

15:40~ 講評

16:00 終了

2) Part 2 : 平成 21 年 12 月 21 日 (月) 14:00~16:30

場所 : タワーホール船堀 4 階研修室

テーマ : 「国家試験問題作成のコツ IV

~保健師国家試験問題作成への挑戦!!~」

14:00~ 講演 「教育評価能力の向上のために

~問題作成の具体的方法~」

講師 川本 利恵子先生 (九州大学教授)

14:50~ グループワーク (Part2 では問題作成)

「質の高い保健師国家試験問題の作成をめざして」

16:00~ 講評

講師 川本 利恵子先生 (九州大学教授)

16:30 終了

4. 研修結果

1) 参加者数

Part1 参加者 108 名

Part2 参加者 52 名

2) 2 研修会終了時のアンケート結果

研修会を行った成果として, 参加者の反応を整理した.

(1) 研修会「講演」について

- ・ 初めておよび複数回の受講であったが, わかりやすく回を重ねるごとに理解が深まった.
- ・ 国家試験問題作成を具体的に想定することで, 国家試験の視点から改めて保健師教育について考えることができた.
- ・ 教育の展開を授業目標・内容・方法・評価という連続性で捉える中に, 「保健師国家試験からみた能力の視点」が必要であることを再確認し, 「何を学んで欲しいか」, 「能力を測るにはどんな問題であればいいのか」を改めて考えることができた.
- ・ 国家試験問題を分析することにより, 認知領域をタキソノミー分類で評価し, 問題の必要度, 難易度の 2 次元評価 (修正イーベル法) によって, 「保健師の何を問うべきか」, 「どのような問題が保健師能力を問うのにふさわしいか」を知ることができた.
- ・ 保健師教育修了時の到達度は何か. 保健師に求められる能力は何かを改めて考えることができ, 日常の定期試験の作成や評価のなど日々の教育に生かしたい.

以上の意見は、保健師国家試験問題分析や評価そして自らの問題作成は、改めて教育による保健師能力を到達させる手法の一端にあり、これは保健師教員に課せられた重要な役割であることを実感するものであった。

(2) 演習（グループワーク）に参加して

- ・ 今回の研修会グループワークは、第95回保健師国家試験問題を「適切か」と分析し、保健師能力をみる問題としてどうかの検討であった。問題点の指摘は「質の高い国家試験問題作成をめざして」一定の根拠をもって検討することで、「適切かどうか」が揺るぎないものになることが理解できた。
- ・ 講演を受けて、自ら問題を作成するという実践レベルの企画であった。参加回数を考慮したグループ構成によって、同じ問題の検討・作成を複数グループで行い、全体発表によって共有したことにより、具体的に問題の質の違いを学ぶことができた。
- ・ 問題作成は保健師の専門性に照合しながら行なうことができた。

以上、講義と演習を通して過去国試問題を複数グループで検討することで、専門性について根拠を持って分析し、具体的にはどうすれば専門性を問う問題になるかが実感できたという反応であった。

(3) 研修会から得たことは何か、それをどのように生かしたいか

- ・ 「問題作成に挑戦したい」との意見がそれぞれの研修会で7名あり、大きな成果であった。
- ・ 人が作成した問題の批評はできるが、自らの問題作成がいかに難しいかを学んだ。
- ・ 問題作成は、評価すべき教育目標を明確にしないといけないことが実感できた。
- ・ 常日頃からタキソノミー分類や修正イーベル法を念頭に試験の問題作成を行ないたい。
- ・ 授業のあり方、教育のあり方を振り返る重い研修だった。
- ・ 保健師教育のFD研修に匹敵するものである。

以上、国家試験問題の質や保健師の専門的基礎能力とは何かを「国家試験レベル」で問うことは今までになかった視点であり、基礎的能力をより厳密に計る方法論について考えることができたとの反応であった。

3. 研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
島田陽子	保健師助産師看護師国家試験問題の公募に関する概要	看護教育	Vol. 49No. 8	P. 656	2008
川本利恵子	国家試験問題作成は教員に必要な能力の1つ - 検討のあゆみを振り返って -	看護教育	Vol. 49No. 8	P. 658	2008
叶谷由佳 佐藤幸子 小林淳子 佐藤和佳子 (他9名)	卒業試験を国試モードに - 学科ぐるみの取り組みと教員にとっての意義 -	看護教育	Vol. 49No. 8	P. 663	2008
島田陽子 川本利恵子 井上智子 栗本澄子	問題作成経験を積極的に - 国試問題プール制定着のためにできること -	看護教育	Vol. 49No. 8	P. 668	2008

4. 資料

資料 1 : 看護師国家試験に関する調査用紙

資料 2 : プール制啓蒙活動のための研修会のアンケート結果